

平成 25 年度 第 2 回

公 共 事 業 等 審 査 会

追 加 資 料

(第 1 回(9/19)審議事業)

平成 25 年 10 月 18 日

追加説明項目〔第1回公共事業等審査会（9月19日）審議事業〕

■内 容

<①道路事業> . . . 道路街路課

- (1) 将来交通量推計の方法等について
- (2) 環境影響評価の実施概要について
- (3) 道路の更なる活用のためのソフト施策の取り組みについて
- (4) 渋滞状況の時間分布等について

<②街路事業> . . . 道路街路課

- (1) 渋滞状況の時間分布等について
- (2) 無電柱化に関する県の考え方について

<③河川事業> . . . 河川整備課

- (1) 総合治水条例や河川整備計画等の評価調書への記載について

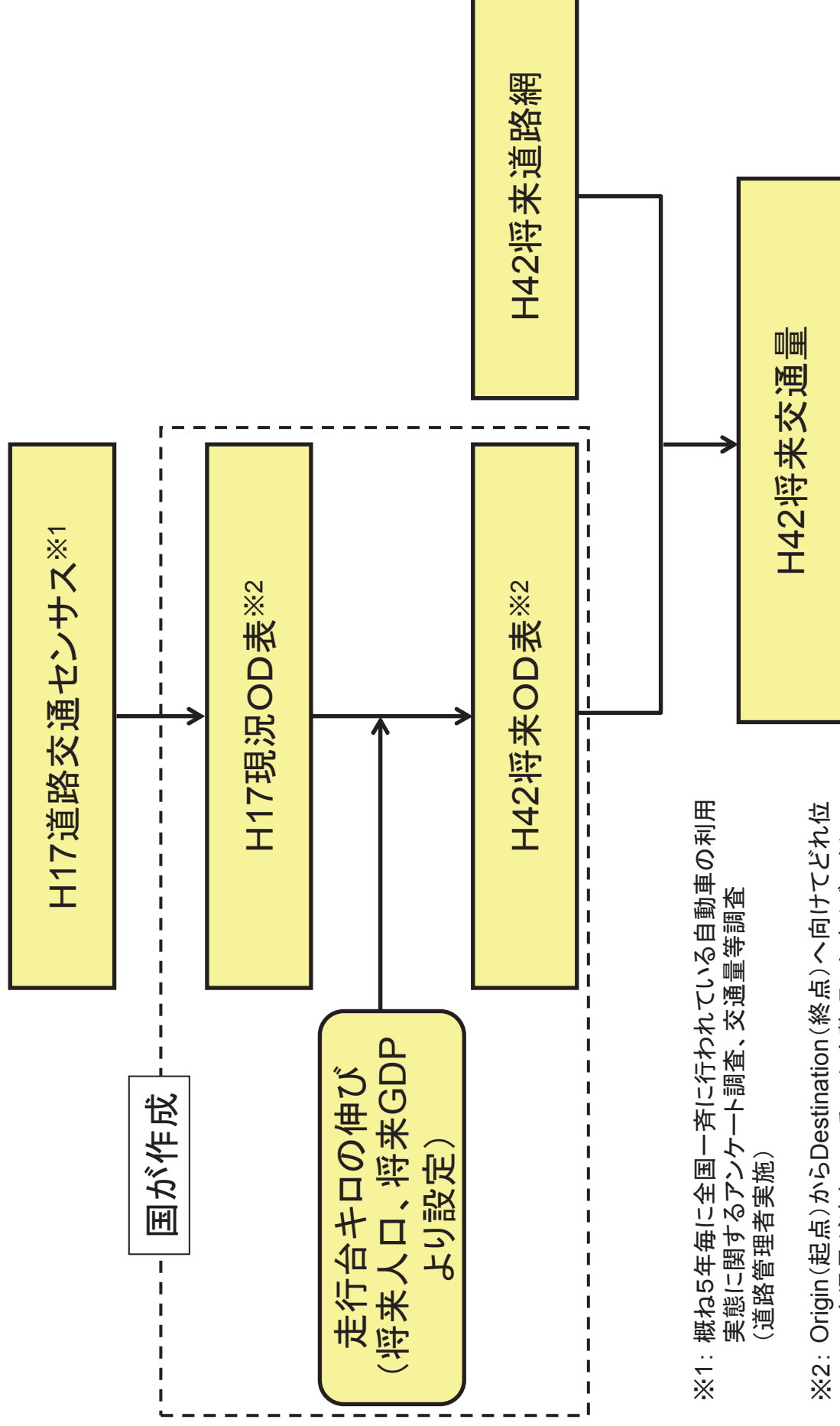
<④県営住宅事業> . . . 公営住宅課

- (1) 性能評価やメンテナンスの方法及び評価調書への記載について
- (2) 環境適合性の評価調書への記載について

① 道路事業

追加説明項目 1. 将来交通量推計の方法等について

交通量推計の方法

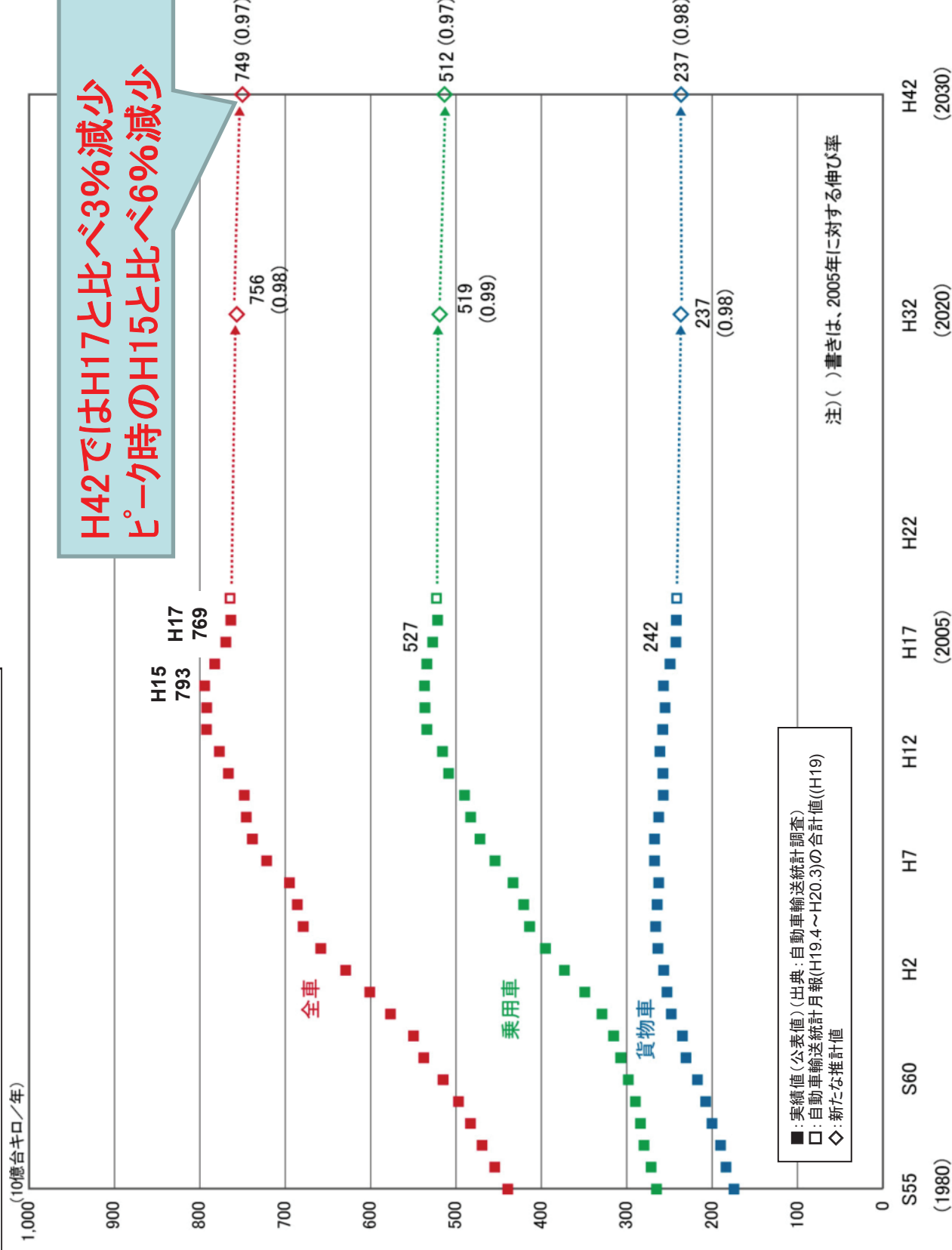


※1: 概ね5年毎に全国一斉に行われている自動車の利用
実態に関するアンケート調査、交通量等調査
(道路管理者実施)

※2: Origin (起点) からDestination (終点) へ向けてどれ位
の交通量が流れているのかを整理した表(データ)

走行台キロの実績値と推計値(全国)

資料1-2



整備後の交通量の推移

資料1-3

A-A'断面路線別交通量

現況（東播磨南北道路なし）

（主）加古川小野線
 交通量 176百台/日
 混雑度 1.96

（主）宗佐土山線
 交通量 129百台/日
 混雑度 1.43



将来（東播磨南北道路あり）

（主）加古川小野線
 交通量 31百台/日
 混雑度 0.34

東播磨南北道路

交通量 243百台/日
 混雑度 0.55

（主）宗佐土山線
 交通量 38百台/日
 混雑度 0.42



並行する一般道路から
 東播磨南北道路へ交
 通が転換し、混雑度は
 大幅に減少！

山陽道三木小野IC利用交通量

山陽道 三木小野IC 利用交通量

【東播磨南北道路 なし】

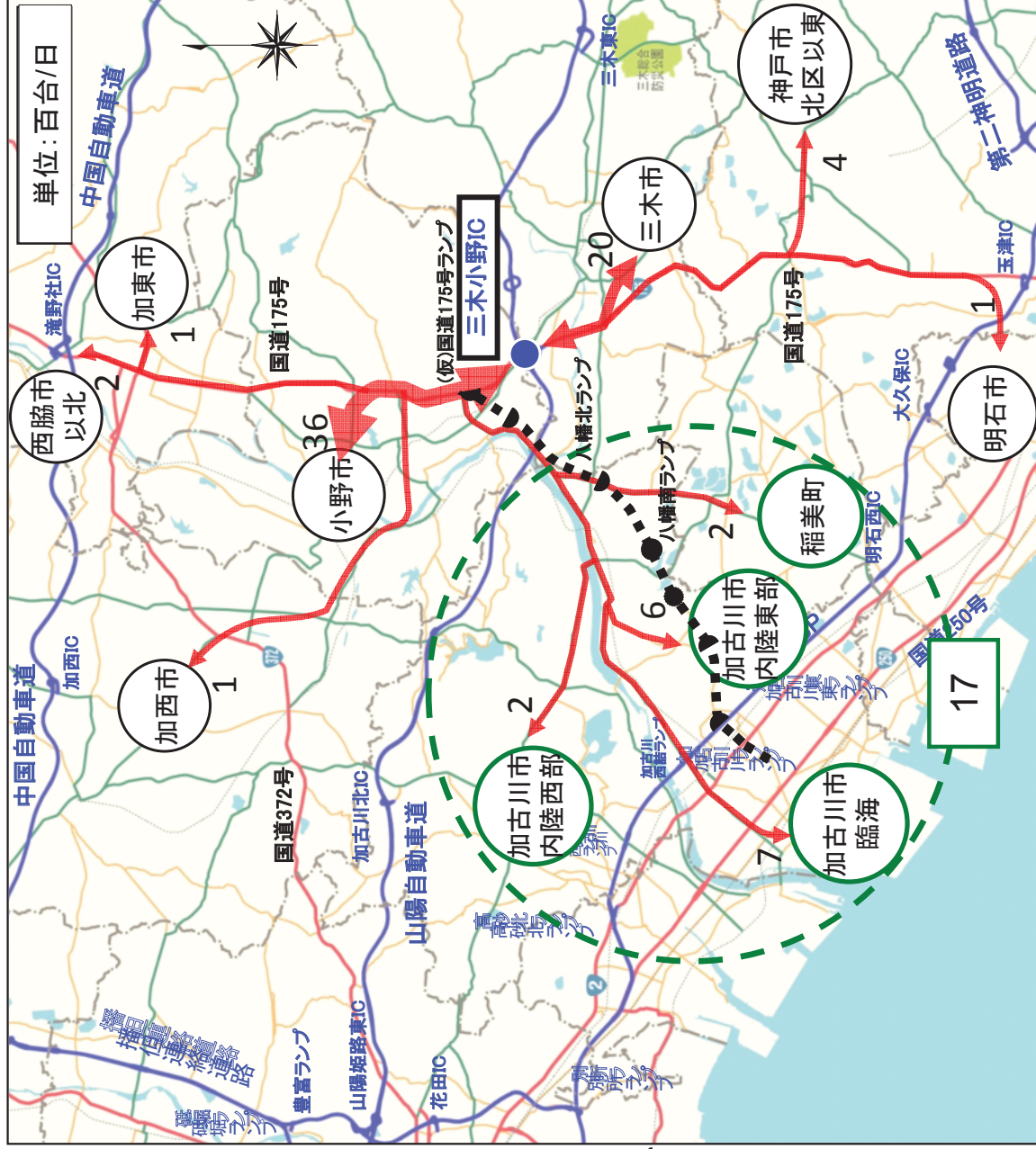
- ① 全交通量
 8,200台/日(H42推計)
 <実績>
 H23交通量 約9,200台/日
 H24交通量 約9,600台/日

- ② 加古川市周辺からの交通量
 1,700台/日(H42推計)

【東播磨南北道路 あり】

- 東播磨南北道路・国道175号を
 経由する交通量
 1,500台/日(H42推計)

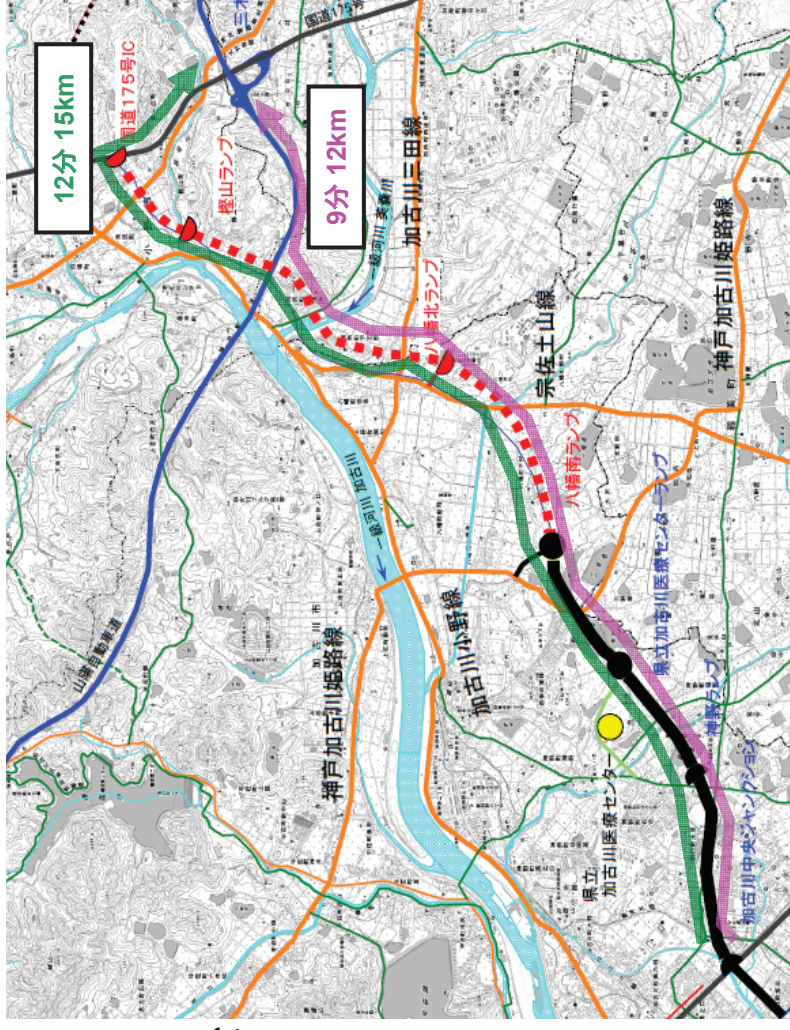
山陽自動車道 三木小野IC 利用交通流動(H42推計)



山陽自動車道との接続

直接接続しなくても利便性の低下は小さい。

- ①山陽道と接続する場合としない場合の時間差は3分
- ②国道175号を経由しても三木小野ICまで信号はなく、高速性と定時性が確保できる。
(一つの大きなJCTとして機能する)
- ③事業費 約85億円
(加古川中央JCTと同規模と考え)
- ④JCTと三木小野ICとの間隔が約2kmなので、NEXCOの基準を満足しない
(NEXCO基準 通常5km 特例3km)



環境影響評価の概要

1. 概要

- ①事業の実施に際し、環境への影響について調査、予測、評価を行い、結果を公表
- ②県民、市町、学識経験者等の意見を聞き、必要に応じ、事業計画を変更
- ③事後監視調査として、工事中・完了後に、環境に与える影響を調査し、公表

2. 対象

- ①加古川BPから八幡北ランプまで(自動車専用道路・4車線)
都市計画決定手続きにあわせて、「環境影響評価に関する条例」に基づき実施
- ②八幡北ランプから国道175号まで(自動車専用道路・2車線)
都市計画決定時に任意の環境影響評価を実施

※県条例では、自動車専用道路の4車線以上が対象

3. 主な調査項目

- ①大気汚染、②水質汚濁、③騒音・振動、④地形・地質、
⑤植物、⑥動物、⑦生態系、⑧景観

調査・予測・評価 結果

評価結果

①大気汚染：二酸化窒素、一酸化炭素、二酸化硫黄等で調査・予測・評価



環境基準値である**環境保全目標を満足**

例) 二酸化窒素

予測値 0.025～0.053ppm 環境保全目標(0.06ppm以下)を満足

②騒音・振動：環境基準値である**環境保全目標を満足**

例) 騒音(昼間)

予測値 53～64dB 環境保全目標(70dB)を満足

③植物・動物：移植等、適切な保全措置を行い、生育環境に与える影響の低減を図る

例) 植物(ケテイカスラ)

生育適地へ移植等で影響の低減を図る

ケテイカスラ

動物(ダルマガエル、カスサジョウウオ等)

水路構造の工夫、繁殖期外の工事の実施、

移植等で影響の低減を図る



ダルマガエル

追加説明項目 3. 道路の更なる活用のための ソフト施策の取り組みについて

資料3-1

ドライバーが「使いやすく」、「わかりやすく」するため



ソフト施策の実施

① 人と道路と車を結びつける「高度道路交通システム」の活用

道路管理の効率化

道路管理者

交通管理者

交通事業者

自動料金收受システム(ETC)

ナビゲーションシステムの高度化

交通管理の最適化

公共交通の支援

② 地域の観光・産業分野等と連携した広報

③ 住民等に愛着や親しみを感じてもらったための工事中・供用後の広報

道路管理の効率化

道路情報総合管理システム：道路のトンネル、冠水危険箇所、工事による規制箇所、凍結危険箇所等の情報を管理。

